

## 目次

まえがき

## 第二章 文章自体が「踊り念仏」

三十一文字のラヴェター

キラキラネーム（もしくはDQNネーム）についての考察

お父さん、だいじょうぶ？ だいじょうぶ……じゃないかも

姉ちゃん、ごめん！

「ラブホの上野さん」の文章指南

いちばんの天才は「偶然」だった

「大阪おばちゃん語」が世界最強なんやて

さあ、クエスチョン！

毎度馬鹿馬鹿しいお笑いを

まど・みちおさんからおてがみついた

なんてったってアイドル……アイドル？

「ジャギユア」の衝撃

## 第二章

### 太腿ふとももといふ指定席

オジーに訊け！……いや、訊かない方がいいかも

地名（のキラキラ化）に関する考察

たかが比喩、されど比喩

実篤さん、みつをさん、そして、いまは、修造さん！

ちよつと、色の話ですが

不採用！

真夜中の俳句

世界の名作を2秒で読めるか？

世界一素敵な書店はどこにあるかしら？

こんな研究をしています、マジですから……

もし武田信玄の時代にインターネットがあつたら

オノ・ヨーコ、半世紀ぶりの贈り物

赤ちゃんの言い分

パン屋さんの前に置かれた黒板に彼は毎日、ことばを書きつけた

### 第三章

穴があくほど見る……

君の視線はレーザー光線か!?

お釈迦さま以外はみんなバカ

学名に気をつけろ!

辞書は引くものでも、読むものでもない、作るものだ!

語源な話

変わった本

校正畏るべし

こんな単位、あんな単位

正式な? 名前

雨、風、雲のことば

(誰も知らない)ことわざ大全集

翻訳できない世界のことば

## 第四章 接吻されて汚れた私

人生相談してみる？

日常の中にひそむ、素晴らしいなにか

大正時代の身の上相談

オヤジの時代が始まる……のかもしれない

ババア、ノックしろよ！……じゃなくて、

お母さん、ごめん、ドアを開ける前に絶対ノックしてね、だって、おれ……

## まえがき

当然のことだけれど、わたしたちは、本のことを、ただ「本」と呼ぶ。他に呼びようがないと思っっているからだ。

「本屋に行ったら、好きな作家の新しい本が出ていたので、買って読んだ」とか。

「教養のために、まずなにより本を読みなさい。スマホもいいけど」とか。

こんな具合に「本」ということばを使う。けれども、ただ「本」と呼ぶのではなく、もう少しいねいに説明した方がいい場合だってある。たとえば、

「無人島に持ってゆく三冊の本」とか。

「大好きな本」ではなく「これから読みたい本」でもなく「いままで読んでいちばん面白かった本」でもない「無人島に持ってゆく三冊の本」。さて、その三冊には、どんな本を

選ぶことになるのだろう。そのとき、わたしはどんなことを考えるのだろうか。そう、本は、読むためにあるだけではなく、読む前にもいろいろなことをわたしたちに教えてくれるのだ。

タレント（で、たいへんな読書家の）水道橋博士と「刑務所に入るとしたら持ってゆきたい本」をテーマに公開でお話をしたことがある。そのときもまた、ものすごく面白かった。これはもう、その本を選んで持ってゆくためには、なんとか刑務所に入るしかない、と思ったぐらいだ（わたしは実際に、刑務所というか拘留所に半年以上入って、読書に専念したことがあるので、リストを選ぶならまかしてください）。

さて、この新書で紹介しているのも、ただの「本」ではない。「ラジオで読む本」だ。わたしは、NHKの「すっぴん！」という四時間の生のラジオ番組でパーソナリティーをやらせていただいている。二〇一二年に始まった番組は今年で七年目、その中に、「源ちゃん」の「ゲンダイ国語」という、およそ十五分のコーナーがある。そこで、わたしはずっと本を紹介しつづけてきた。ラジオという形、十五分という時間、そんな制約があるからこそ面白い。そんな場所にふさわしい本を考え、探し、見つけた後は、どう話すかを考える。

そのコーナーに、わたしがしゃべるために書かれたシナリオはない。ぶっつけ本番だ。

よく覚えていなければならないけれど、一回目に選んだのは、宮崎駿さんの『風の谷のナウシカ』のマンガ版だった。そもそも、目で見えるために描かれたマンガのセリフを朗読したのだった。やり方はいろいろ。本の中身をざっと紹介することも、著者の話をする 것도、わたしとその本の関わりについて話すこともある。そして、もちろん、いちばん大切なのは、その本の「中心」、あるいは「核」と思える場所を朗読してみること。わたしの声に載せて、その本の「声」が伝わるかいいなと思う。真剣な声、悪戯いたずら好きな声、子どもっぽい声、長い時間の年輪が伝わってくるような声。しゃべりながら、わたし自身が、その本の「声」に耳をかたむける。そして、ただ読んでいるだけでは気がつかなかったことに、気づくのだ。

一冊の本が十五分の「声」での紹介と朗読になる。その「声」を、今度は紙の上に蘇らせることになった。頁を開いて、「声」に耳をかたむけてください。



# 第一章 文章自体が「踊り念仏」

### 三十一文字のラヴレター

昔、昔あるところに、若い男女がいた。その若いふたりはたちまち恋に落ちた。それは、珍しいことではないだろう。そして、その恋は実り、結婚し、子どもが生まれ、さらに年月がたち、そのカップルの一方、女性の方が癌にかかった。それもまた、そんなに珍しいことではないかもしれない。闘病生活が始まり、家族はその女性を支えた。だが、病魔は、ついに彼女の生を奪う。そういう場合もあるだろう。最後の最後まで、男は女を、女は男を、愛し続けた。それもまた、ごく稀にある例なのかもしれない。だが、その男女が両方とも、優れた詩人、いや、この国を代表する優れた歌人だというのは？

そんな話は聞いたことがない。そして、最後まで、ふたりの間で、ラヴレターにも似た愛の歌が交換されていたとしたら？ それはもうはつきりいって、世界史に残る偉業ではないかと思う。そう、河野裕子・永田和宏の『たとへば君きみ 四十年の恋歌』（文藝春秋）は、

いまわたしが書いたような内容の本なのだ。つまり、空前絶後の本、ということである。

河野裕子は昭和二十一年（1946年）に、熊本県に生まれた。

永田和宏は昭和二十二年（1947年）に、滋賀県に生まれた。

ふたりは、昭和四十一年にともに大学（京都女子大学と京都大学）に入学。ふたりは、同じ短歌の同人誌に加わり、そこで出会う。

たとへば君 ガサツと落葉すくふやうに

私をさらつて行つてはくれぬか 河野裕子

きみに逢う以前のぼくに遭いたくて

海へのバスに揺られていたり 永田和宏

その頃、河野には、別の恋人がいたのだが、その悩みを河野は、このような直截な思いでぶつけた。「ガサツと落葉すくふやうに」だ。これはもう、青春映画の永遠の名作『卒

業』（一九六四年。ラストシーンで、ダスティン・ホフマンが愛する彼女の結婚式に乱入し、そのまま花嫁をさらっていく）を超えている。一方の永田の歌も素晴らしい。若者の恋は、とりわけ、青年男子の気持ちは、こうなのである。

言ひかけて開きし唇の濡れをれば

今しばしわれを娶らずにゐよ

河野裕子

いだきあうわれらの背後息あらく

人駈けゆきしのち深き闇

永田和宏

ふたりの若い愛情はどんどん深まってゆく。その頃の歌だ。愛を交わすうちに、ふたりは「結婚」を意識するようになる。でも、それよりもっと深い官能が若者たちを揺り動かしているのである。

しんしんとひとすぢ続く蟬のこゑ

産みたる後の薄明に聴こゆ

河野裕子

森閑と冥き葉月をみごもりし

妻には聞こえいるという蟬よ

永田和宏

付き合つて五年ほどでふたりは結婚。この年、河野が第一歌集を作つた。翌年、長男が誕生。それから二年で、長女が誕生、永田が第一歌集を出した。

そして、彼らは、その愛と生活を、日々、歌に変えていったのである。

米研ぎて日々の飯炊き君が傍<sup>へ</sup>に

あと何万日残つてゐるだらう

河野裕子

たつた一度のこの世の家族

寄りあいて雨の廂<sup>ひさし</sup>に雨を見ており 永田和宏

つまり、優れた歌人たちが家を作るといふことは、そのことによって、生活そのものが、

愛そのものが鍛えられ、一つの芸術としかいいようのないものに変化するということなのかもしれない。ふつうの恋人たち、ふつうの夫婦が、かつての緊張を失ってゆくのに、このふたりは、最初に出会った時の、激しさや緊張を、歌を作ることによって保ち続けているたのかもしれないのである。

長い時を過ぎ、やがて、河野が癌になる。ふたりの愛の最終局面はこんな風に歌われてゆく。

一日に何度も笑ふ笑ひ声と

笑ひ顔を君に残すため

河野裕子

一日が過ぎれば一日減つてゆく

君との時間 もうすぐ夏至だ

永田和宏

そして平成二十二年（2010年）八月、河野裕子は亡くなる。絶筆が次の歌だ。河野はもうペンを持つ力もなく、永田が、河野の口もとに耳を寄せて、この歌を書きとめたの

である。

手をのべてあなたとあなたに触れたきに

息が足りないこの世の息が

河野裕子

## キラキラネーム（もしくはDQNネーム）についての考察

キラキラネーム、もしくはDQN（「ドキュン」と発音するそうです）ネームが、この国を徘徊（は徘徊）している。「洋子」とか「弘子」といった昔懐かしい名前ではなく「亜里沙」（ありさですね）といった洋風で、ロマンチックな名前を、さらに一層過激に推し進めた、猛烈に可愛いともやりすぎともいえる、そしてなにより、そこで使われている漢字を見ても、発音することができない一群の名前のことである。ほんとうに、どう読めばいいのか、わたしのような教師は、たいへん困惑している。

たとえば、（大学）一年生の授業に出て、名簿で名前を呼ぶとするでしょう。半分以上は、読めないんですよ！ アメリカ人の名前は読めるのに、どうして同じ日本人の名前が読めないのか。まるでわからない。

というわけで、つい最近、ある名前に関するサイトで発表された「2013年度ベス



ト・オブ・キラキラネーム」(リクルーティングスタジオ提供)のリストを見ながら、なぜこの国で、異様なほどそのような名前が流行<sup>はや</sup>るのかを考えてみようと思ったのだ。

リストに載っているのは30。なので、第30位から順に見ていきたい。

30位「雅龍」。さて、なんと読むのでしょうか。ほら、わからないでしょう。が……がりゅう？ ちがいます。「がある」である。しかし、「雅」が「が」で「龍」が「る」だとしたら、「あ」はどこから来たのだろう。子どもに名前をつける場合、漢字をどのように読んでもかまわないらしいのだ。ほんとに不思議である。それにしても、当然、この名前は、女の子につけるのでしょうか。

28位「緑夢」。もちろん、りよくむ……ではありません。これは、なんと「ぐりむ」なのだ！ なるほど、いわれてみれば、「みどりのゆめ」だから「ぐりん&む」で、おかしくはない。とはいえ、子どもの名前が「ぐりむ」じゃあ、その子に童話を読んでもあげより、その子に読んでもらった方がいいのかも。

27位「頼音」。これは、なんとなくわかるでしょう。そのまま読めばよろしい。「らいおん」である。わたしがパーソナリティをやらしていたいている「すっぴん！」というN

HKラジオ番組の、別の曜日に出ていらっしやるダイヤモンドユカイさんの息子さんがその名前だ。あれ？ お父さんこそ、ほんとのキラキラネームじゃないか……。

ぐっととんで、これは如何。

15位「姫凜」。ひめりん……いや、きりん……。ぜんぜん違う。これ、「ぷりん」と読むのだそうだ。「凜」はいいけど、「姫」が「ぷ」ってなぜ、と疑問を感じる方、さっきも申し上げたように、漢字をどう読んでもかまわないのだ。食べたいぐらい、可愛いから「姫凜」、それでいいのだよ。

12位「本気」。イヤな予感がするでしょう。このことばが、最近、どのように発音されているか、わたしだって知っている。「まじ」。えっ？ ほんとに、これ、名前なのに、そう読むの!? 高橋本気、で、たかはしまじ君。なんか変だ、と思うわたしは、古いのだろうか。この名前をつけた親は、絶対、ヤンキーだと思うのだが。

8位「今鹿」。なんだか、こちらはもつとイヤな予感がするでしょう。まさか、と思うでしょう。そのまさか、なんですよねえ。「今鹿」で「なうしか」。「今」が「なう」……いや、そんなことはどうでもいいし、「なうしか」ちゃんとつけるのもいいけど、「今鹿」

はないような気がするのだけど。

3位「姫星」。これは最初に正解を発表しよう。「きてい」である。「姫」を「き」と呼ぶのはいい。でも、「星」が「てい」……わかつている、イメージなんだ、全部。「姫」と「星」、可愛いものの全部を集めたもの、それが「きてい」ちゃんなのだ。たぶん。

2位「黄熊」。いや、だから、黄色くて熊で、可愛いものといえば？ そう、あれです。わたしの家にもぬいぐるみがある……「ふう」です。でも、この子と呼ぶ時は「ふうちゃん」でいいのだろうか、やはり「ふうさん」？

1位「泡姫」。ギョツとしました？ 正直にいつてください。子どもにそんな名前をつけるなんて、と思ったでしょ？ いくら親でも、そんな権利はないと。実はわたしもそう思った。ご心配なく、「泡姫」は「ありえる」と読んで、アンデルセンの「人魚姫」にも出てくる、空気（や泡）の精霊の名前であり、「人魚姫」を原作にしたディズニーの「リトル・マーメイド」のヒロイン（の人魚）の名前であって、特殊な風俗嬢の別名ではないのである。

さて、みなさんは、このリストを見て、どのようにお考えになっただろうか。キラキラ

ネームは可愛いものばかりだ。それも、たいていは外国製の可愛いものだ。外国製の可愛いものを漢字で読めるようにする。それは、外見は日本人であるまま、外国人になりたいという、日本人の奥底にある願望の表れではないのだろうか。ちなみに、うちの子どもたちは、鍊太郎に伸乃介で、純和風です。

お父さん、だいじょうぶ？　だいじょうぶ……じゃないかも

『お父さん、だいじょうぶ？ 日記』（リトルモア）は、まだ小さい三人の男の子のお父さんである、カメラマンの加瀬健太郎さんがブログに載せた文章（と写真）をまとめたものだ。内容は、「お父さん、だいじょうぶ？」的なものだ……いや、お父さんだけではなく、生きていれば誰だって、「だいじょうぶ？」と感じるときは多いのではあるまいか。そんな生きとし生けるものすべてに向かって、この本は「だいじょうぶ？」と訊ねているのである。

「1月15日（金）　なまえ

下の子に、『ママって呼んでるけど、ママの本当の名前知ってるか？』と聞いたたら、

『奥さん』って答えた」

そうじゃないんだ、息子よ。ほんとに。でも、確かに、家族のほんとうの名前が何なのか、家族の中で確認したりはしないよね。試しに、みなさんも、一度、訊ねてみてはどうでしょうか。

「7月21日（木） いいね

僕は計算が得意でないので、嫁さんが確定申告をしてくれている。だから、出費があると領収書かレシートを嫁さんに渡すことになっている。なので、僕の行動はだいたい把握されている。その領収書を見て嫁さんは、『いいね、あんたは一人でコーヒー飲めて』『子どもほつといて、お酒飲みに行けていいね』『てんやの天井食べれていいね』『二人で映画見に行けていいね』『1500円のカレー食べたん？ いいね』『二人で新幹線乗れていいね』他、いいね！ ボタン押しまくる」

そうじゃないんだ、嫁さんよ。ただ楽しみのためにコーヒーを飲んだり、映画を見に行

ったりしてるんじゃないんだ。頭の中はフル回転してるんだ。ぜんぶ仕事の一環なんだ。わかってくれ！　お願いだ！　えっ？　それ……キャバクラの領収書です……。

「10月15日（土）　グーマ③　お姫様

週末、グーマ（高橋注。加瀬さんの義理のお母様である。グランマの略ですね）とみんなで車に乗っていた時のこと。『ママは女忍者。ニイニイは忍者。パパも忍者。グーマは女忍者』下の子はみんなを忍者にして遊んでいた。するとグーマが、『ね〜ね〜、グーマは〜、お姫様がいいな〜』と甘い声で言った。僕は、『またキツツイこと言うとな〜』と思ったけど、いつものことなので、黙って運転を続けていた。すると下の子が、『こんなおばさんのお姫様がいるかよ〜』と叫んだ。こーちゃん、パパの言いたいことを言ってくれてほんまにありがとう。念のために言っておきますが、僕とグーマは、仲良くやっていると僕は思っています」

そうじゃないんだ、息子よ。グーマは、ほんとうにお姫様なんだよ！　悪い魔女に呪い

をかけられて、おばあさんになってしまったの！ だから、呪いが解けると、ちゃんと、可愛いお姫様になる……と思うよ。たぶん。わかった？

### 「3月6日（月） 結婚相手

下の子が結婚相手を決めた。内緒だよと耳元でこっそり相手の名前を覚えてくれた。突然の告白に驚いていると、『でもさ、10年早いんじゃない？』と上の子が知ったように言う。10年後でも14歳やからそれでもまだ早いと思う。内緒なのでお相手が誰とは書けないけど、その子は、僕が幼稚園にお迎えに行くと、笑いながら僕の手を舐めてくる。『臭くなるからやめて』とその子に言うのと、笑いながらもつとしてくる。下の子は、なかなか見る目がある」

そうじゃないんだ、息子よ。確かに、その子はすごい。男を落とすテクニックを生まれつき身につけているのかも。狙った相手の父親の手を舐めるなんて、そんなリスクな手段、ふつうは思いつかんぞ！ だからこそ、息子よ、おまえのレベルで、その子の相手が



できるんだろうか。いや、頼りになりそうだからなあ……あの、息子をお願いします！

「5月24日（水） いちばんじやなきや

僕が家で仕事をしていると、こーちゃん（真ん中の子）が『パパが世界でいちばん大好きだよ』と言いに来た。ママを赤ちゃんと取られ、兄を小学校に奪われ、暇そうにしている僕が繰り上がったとは思えない。夕方、こーちゃんと公園に行った。僕は、今までにないくらい本気で遊んだ（携帯を見るなんてしない）。世界一の座は誰にも譲らない」

息子よ……きみ、もう、パパなんかどうでもいいと思っただろうなあ……。

**お釈迦さま以外はみんなバカ**  
**高橋源一郎・著**

発 行：集英社インターナショナル（発売 集英社）  
定 価：740 円（本体）＋税  
発売日：2018 年 6 月 7 日  
ISBN：978-4-7976-8025-6 C0295

ウェブでのご予約・ご注文は [こちらにどうぞ！](#)